

*Revue de littérature comparée* 発刊百年記念号についてのお知らせ

東大比較文學會会長 今橋映子

2022年9月5日

比較文学という学問が、フランス起源であることはよく知られていますが、そのフランスで最も歴史ある研究誌 *Revue de littérature comparée* が発刊（1911年）より百年を迎えるのを記念して、2021年10-12月合併号（Klincksieck、2022年春発刊）で《*Le monde des revues de littérature comparée*》（「比較文学雑誌の世界」）と称した、大変興味深い特集号が刊行されました。国名のアルファベット順で、南アフリカから始まって計35ヶ国の比較文学雑誌についての記事が並ぶのは実に壮観です。日本の項目は、今橋映子が井上健、および源貴志両氏の御協力を得て執筆しました（マリアヌヌ・シモン=及川氏訳）。

編集部からの予めの執筆要項の中には、「一般の文学雑誌と異なって、比較文学雑誌の特色をどのように出しているか」「今後デジタル化する予定はあるか」等の質問があり、世界共通の課題（あるいは悩み）が存在することをうかがわせます。

また大変に興味深いのは、計35ヶ国90種類近い雑誌が時系列に並べられた表により、日本の東大比較文學會『比較文学研究』（1954年）が5番目、日本比較文学会『比較文学』（1958年）が6番目、早稲田大学比較文学研究室『比較文学年誌』（1965年）が11番目に位置しており、いずれも世界的に古い歴史をもっていることが、改めて明らかになったことです。一方で、2000年代に入ってから実に40種類もの新しい雑誌が世界で刊行されており、比較文学の勢いはまだ失われていないことも分かります。東大比較文學會にとっても、今後、こうした世界的動向の中に改めて自分たちの研究を位置づけていく作業が必要となると考えています。

日本のAmazonからの購入も可能なようです。取り急ぎ、会員へのお知らせまで。

<https://www.amazon.co.jp/Revue-Litterature-Comparee-2021-Rlc/dp/225204540X>